

令和3年度医療機能分化連携推進事業（回復期施設・設備整備）
実施希望調査票

概要

医療機関名	医療法人財団 神徳会 三田尻病院	医療 圏名	山口・防府
整備目的	<p><圏域の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 山口・防府圏域では、2018年10月現在、山口・防府医療圏の休床を除く許可病床は3,833床。2025年に必要とされる病床は3,008床。高度急性期・急性期・慢性期の区分で必要病床数を現在の病床数が上回っている。（当院は地域特性に鑑み2020年に急性期16床の病床削減を実施） ○ 一方で75歳以上人口の増加等に伴い、回復期では医療需要の増加が見込まれており、2025年の回復期の必要病床数899床に対し、令和元年度時点で634床と不足している。 ○ 防府地域には回復期病床296床（病院258床、診療所38床）があるが、自院の急性期病棟等からの患者受入を行うポストアキュート機能が多い。 今後、高齢化が進展する中で、更なる回復期病床の増、特に地域の在宅療養患者の急変時に受入れを行うサブアキュート機能を担う病床の増が必要となる見込み。 <p><防府地域における当院の役割></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 山口・防府医療圏、とりわけ防府地域の医療提供に際しては高度急性期機能を担う山口県立総合医療センターの存在は欠くべからざるものであり、その高度急性期機能の維持を最優先に考えるべきである。急性期、回復期両機能を担う当院としては、県立総合医療センターを補完し、その負担を軽減するような一般的な急性期機能、回復期機能についてその充実を図る必要がある。 ○ サブアキュート機能の充実が求められている状況に鑑み、今後高齢化により増加が見込まれる整形外科・脳神経外科疾患への対応を強化し、在宅患者の急性増悪時等の、救急患者の更なる受入や地域の在宅患者の受入を促進する。また、リハビリテーション等の機能を充実させることで早期の在宅復帰への支援を行う「地域包括ケアシステム」の中心施設となる病院を目指す。 		
地域で担う役割			

整備の必要性	地域医療の現状に鑑み、更なる回復期機能の充実を計るため当院は今後、施設及び設備整備を行う必要がある。 (地域包括ケア病棟 29 床を整備)
その他 (転換病床数の考え方等)	当院は救急告示病院であり、引き続き 24 時間体制で患者を受け入れる体制を確保する必要があることから、49 床を急性期病床として維持する。
整備概要	
整備時期 (予定)	施設 着工：令和 3 年 1 2 月～竣工：令和 4 年 2 月 設備 令和 4 年 2 月
事業の種別	新築 ・ 増改築 ・ 改修
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ・手術室改修 <ul style="list-style-type: none"> ・手術室を改修し、在宅患者の急性増悪時に多い整形外科・脳神経外科疾患に対応できる環境を整備。 ・更なる救急患者や、地域の患者の受入を促進する。 ・院内デイケア用リハビリ施設整備 <ul style="list-style-type: none"> ・災害用予備室を院内デイケア施設として整備 (災害時には災害用予備室として利用可能) ・今後増加が見込まれる認知症患者等に対するリハビリテーション機能を強化する。 ・院内デイケア用リハビリ設備整備 <ul style="list-style-type: none"> ・機器として車椅子等を整備。 ・今後増加が見込まれる認知症患者等に対するリハビリテーション機能を強化する。
事業効果	病床削減によって災害用予備室として利用している施設を院内デイケア施設として整備することで更なるリハビリテーション機能の拡充を図る。また手術室の改修によって地域包括ケア病棟における更なる救急患者の受け入れを促進する。

病床数

(単位：床)

	転換前	転換後予定	増減
高度急性期	0	0	±0
急性期	78	49	-29
回復期	50	79	+29
うち地域包括ケア病床	50	79	+29
うち回復期リハ病床	0	0	±0
慢性期	0	0	±0
休棟等	0	0	±0
計	128	128	±0

病床機能報告における病床数

(単位：床)

	R 2 病床機能報告	転換後予定	増減
高度急性期	0	0	±0
急性期	94	49	-45
回復期	50	79	+29
慢性期	0	0	±0
休棟等	0	0	±0
計	144	128	-16

(転換後の「病床数」と「病床機能報告における病床数」が異なる理由)

病床機能報告届出後、16床の急性期病床削減を実施したため。